編　集　後　記

鉄が生活をささえる。タタラは生活のこと。鉄を拵え道具を作る。あまり気をとめなかった地名に意外な事実が隠されていた。消えつつある小字に今一度目を向け、隠された郷土の特色をさぐろう。

郷土の出来事のうちで、通史と直結するものはいろいろあります。中でも「石垣原の合戦」はその最もたるものでしょう。だからでしょうか、この合戦の研究が別府の郷土史の入口とも言われてきました。また、南北朝の乱戦に揺り動かされた大友氏内部の相克も郷土史研究の醍醐味ではないでしょうか。本号の二篇に引き続き今後も論考がまたれます。

大阪毎日新聞の三面先生こと菊池幽芳の「別府繁昌記」は、油屋熊八の「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」の宣伝に先鞭をつけたもの。別府音頭、別府温泉踊り、別府行進曲、ありしよき日の別府温泉

現在別府の特産「竹製品」、江戸時代の特産品「野田山明礬」そして「湯の花」。豊後国速見郡村誌にみられる江戸期より明治時代初期にかけての郷土の世柄や先人の努力等々、ノスタルジアでおわるのでは発展はない。原点を見据えて未来を模索する、そこに歴史の意義がある。

「別府市の文化財と保護樹（文化財地図と解説）」を別府市教育委員会・別府市文化財調査員会が発行しています。郷土の文化財の探索に役立つと思います。

編集子